

ご挨拶

平成29年度の東京都中学校体育連盟の諸事業につきましては、大会運営等ご苦労をおかけしましたが、多くの皆様のご尽力とご協力により、大きな成果をあげて終了することができました。改めて心からお礼と感謝を申し上げます。

5月の第1回理事会におきまして、新役員選任と運営方針並びに活動の重点等が承認され、平成30年度の本連盟の諸活動がスタートいたしました。本部役員、各競技専門部、各ブロック・支部の方々と力を合わせて、本連盟の事業を推進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年新学習指導要領が告示され、平成33年からの全面実施となります。中教審においても、これまでにないほど、部活動の在り方について紙面を割き、学校教育活動の一環としての重要性とその方向性を示しています。平成30年3月にはスポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、文部科学省による「学校教育施行規則の一部を改正する省令」施行にともない、本年4月より部活動指導員が導入されるなど運動部活動は大きな局面にさしかかっています。また、一昨年度より、東京都教育委員会主要施策において、「オリンピック・パラリンピック教育」や「体力向上」が示されています。特に、「体力向上」では、「アクティブプラン to 2020」と題して、平成32年までの5年間の目標が掲げられています。

以上、国の動向や新学習指導要領、東京都教育委員会主要施策などを踏まえて、東京都中学校体育連盟としても、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成、並びに、生涯にわたってスポーツに親しむことができる生徒の育成を求め、東京都教育委員会との連携を図りながら、これまでも推進してきた学校教育の一環としての運動部活動のさらなる発展を考えなくてはなりません。加えて、すべての指導者が運動部活動の意義を踏まえた指導の在り方を一層見直すとともに、体罰などの行き過ぎた指導をしないという強い信念と指導体制を構築する必要があります。このようなことから、本連盟に寄せられる期待は大きく、担っていく役割は重要であると考えます。

こうした期待に応えるためにも、望ましい運動部活動の在り方や運営方法、指導技術の在り方、また、保健体育授業の指導方法等について研究を深め実践を深めていくことが重要です。さらに、スポーツ・体育に関する様々な答申等研究と理解を深めるとともに、(公財)日本中学校体育連盟・関東中学校体育連盟等との連携・協力を努め、多くの課題の解決に努力をしていかなければなりません。特に大きな課題としては、本連盟の財政に関する課題です。大会運営経費面において、消費税や諸物価高騰、会場使用料の増額等に伴い、各大会の運営が非常に厳しい状況になっていることを受け、一昨年度春季大会より大会参加費を値上げさせていただきました。さらに、平成31年度より、事務局員の給与予算を計上する必要が生じてきているため、関係諸機関との折衝を継続して進めてまいります。

今年度は、関東中学校体育大会の「柔道」「ハンドボール」の2競技が東京で開催されます。この開催を含め、様々なことへ対応していくためにも本連盟が力を合わせ、準備を整えて推進することが肝要と考えております。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。